

17	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15109008	人工肝臓に用いる形質転換ブタの生産	幕内 雅敏 (東京大学・医学部附属病院・教授)	B
<p>(意見等)</p> <p>本研究では、全身発現性プロモーター、ヒトアルブミン遺伝子、マーカー遺伝子を連結した遺伝子 pCX-HAS-EGPF を構築し、培養細胞ならびにマウス受精卵に導入し、遺伝子導入、ヒトアルブミン発現に成功した。しかしながら、本研究の最終目的である形質転換ブタの作成においては、本遺伝子導入ブタの生存は得られていない。生存を得るための研究計画を立てているが、対策が十分とはいえずさらなる検討が必要である。また、現在はヒトアルブミン産生のみを計画しているが、血液凝固系因子、線溶系因子など重要なタンパクの遺伝子導入についても検討する必要がある。本システムを用いた人工肝臓の開発の学術的、臨床的意義は大きいですが、その実用には多くの問題点が残されている。</p>				
18	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15109010	新たな組織再生因子リジェネリンとしての CTGF の役割解明と再生医歯工学的応用	滝川 正春 (岡山大学・大学院医歯学総合研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>再生過程には再生・分化作用とともに創傷治癒の機転を考慮しなければならないことから、本研究の CTGF のリジェネリンとしての作用解明は重要であると考えられる。当初の研究計画に則り、遺伝子レベル、タンパク質レベル、組織レベルでの解析に着実に国際的に評価ができる成果を上げつつある。平成 17 年度以降の計画書に記載されている再生医歯工学的応用を目的とした、研究組織の共同研究課題である頭蓋・顔面の発生過程での機能、組織学的、および再生工学分野との連携をより密にした研究の進展を期待したい。さらには、軟骨分化での機能のみならず、研究代表者らの報告している他組織、特に血小板での発現は創傷治癒とも関連し興味ある所見であり、コンディショナルノックアウト (組織特異性、時期特異的) の作製が成功すれば、組織特異的発現とその機能の重要性がより明らかになることが期待できる。</p>				